



**AUGUST  
OFFICIAL  
HANDBOOK**  
2017 SUMMER

千の刃濤  
桃花染の皇姫

\* 千の刃濤、桃花染の皇姫 ショートストーリー  
誰よりも優しく  
安西秀明

\* 12月21日発売予定

千の刃濤、桃花染の皇姫 CS版 発売決定

\* スタッフ対談

## ＊まえがき

Introduction

こんにちは、オーガストです。

初めての方、はじめまして。

何回目かの皆様、いつもご愛顧頂きありがとうございます。

さて、今年4月30日に開催されたCharacter1では、オーガスト初のミニ原画展、「原画・彩色展【オーガスト しごと絵巻】」を開催しましたが、いかがだったでしょうか。事前の私たちの予想と違い、ご来場いただいた方のほとんどがスマホや一眼レフなどで展示された原画の写真を撮られていたのが印象的でした。お楽しみいただけたのなら、企画した甲斐がありました。

また、当小冊子が配布される夏コミでは、「四年に一度？ 帰ってきた夏の天罰祭」ということで、伊瀬野の巫女さんが参加者の皆さんをビコビコハンマーで殴るという奇祭を開催いたします。前回2013年夏、前々回2009年夏も大好評をいただいたイベントで、企業ブースに来た記念になった！ とのお声もたくさんいただきました。今回はどうなるでしょうか？

さて、私たちオーガストは年間数多くのイベントに出展しています。スムーズなグッズの販売と無料配布をメインに考えつつも、できれば、それ以外にもせっかく足をお運びいただいた皆さまに楽しんでいただきたいという思いから、これら天罰祭のようなイベントを企画・実施しております。難点としては……こういったイベントの準備には時間がかかるということ。オーガストのイベント担当スタッフはゲーム開発にも携わっていることから、開発が切羽詰まっている時期にはなかなか企画を実行するに至らないことがあります。「あれ、今回はあまりイベントらしいイベントが無いなあ」という時は、どうか温かい目で見守っていただければ幸いです。

2017年7月23日に、東京オペラシティにて開催した「トラベリング・オーガスト2017」も、そういった開発の合間を縫って実現に至った企画の一つです。当冊子を制作している時点では開催直前ですが、どうか、TA2017にお運びいただいた皆様が公演を楽しんで下さいますよう心より願っております。

それでは、多少のお時間を拝借致しますが、オフィシャルハンドブックをお楽しみください。

2017年夏 オーガスト/ARIA スタッフ一同



千の刃濤  
桃花染の皇姫



## AUGUST OFFICIAL HANDBOOK 2017 SUMMER

- 3 千の刃濤、桃花染の皇姫 ショートストーリー  
誰よりも優しく
- 7 スタッフ対談
- 8 千の刃濤、桃花染の皇姫 CS版発売決定
- 10 あとがき

# 誰よりも優しく

安西秀明

皇国歴二一七〇年——伊瀬野。

☆

講師の巫女様が、黒板に祝詞を板書している。それを書き写すのは約二十人の巫女の卵たち。

皇學舎に入学して三年、私は椎葉の家名を背負って必死に頑張ってきた。おかげで成績は良く、齋巫女様にも目をかけて頂いている。

褒められたことを思い出すと頬が勝手に緩む。後方の席でなければ見咎められていたかも。

この席からは級友たちの背中を見ることができない。もぞもぞしていたり、俯いていたり、人によって様々だ。その中に、いつも見惚れてしまう背中があった。美しく背筋が伸び、気高さと品の良さが漂う。

——閑倉五十鈴さん。

勉強も呪力も一番で次期齋巫女と噂されている。人を寄せ付けない雰囲気があり、私はまだ話したことがない。どんな人なんだろう。一緒に修行してみたいし、友達になれないかな。

「っ!?」

いきなり閑倉さんがこっちを向いた。驚いて身体が硬直する。

じつと見つめてくる閑倉さん。楚々とした顔立ちだが、髪が短めで強気な印象を受けた。

気まづくなつて視線を外すと、閑倉さんも黒板に向き直る。

な、何だつたんだらう。もしかして背中に見線を感じた？ 勉強の邪魔をしてしまったかも。

謝ったほうがいいかな、と考えていると生徒たちが一斉に立ち上がった。

あ、そうか。二人一組で研ぎの実習があるんだつた。私も立ち上がり、友人の席に向かう。

すると、背後から肩を強く掴まれた。

だ、誰？

機械のような動きで、ぎぎぎと振り返る。

「椎葉さん、私と組みましょう?」

私の肩を掴んでいる閑倉さんが、にっこりと笑った。

閑倉さんに連れられ皇學舎裏の丘にやってきた。景色が開けていて綺麗だが、楽しむ余裕などない。

閑倉さんが全く喋らないのだ。刀袋を手には歩く姿は威圧感さえ漂っている。やっぱり怒ってる? いや絶

対怒ってる。だから私を相方に選んだんだ。

「あの、閑倉さん?」

「……」

「い、五十鈴さん?」

「五十鈴?」

閑倉さんの肩がびくっと動く。お、怒った? だって「閑倉」って言にくいし。でも、ようやく喋ってくれた。

「あの、先程はじろじろ背中を見て申し訳ありませんでした。お美しい背筋でしたので見とれてしまい、いえ、決して変な意味でなく!」

「別に怒ってないから」

「え? じゃあ、どうして私を相方に?」

「聞いてみたいことがあるのよ」

「私にですか?」

閑倉さんが頷く。真剣な顔だが、何を聞かれるのかわからない。

「椎葉さん、あなたは齋巫女になるつもり?」

「い、齋巫女? 任じて頂ければ光栄ですが、特に志しているわけでは……なぜ、そんな事を?」

予想外の質問に首を傾げる。私の反応に納得できないのか、閑倉さんは短いため

息をついた。

「当代に目をかけて頂いてるんでしょ? 次代があなただと思うのは当然じゃない」

「いえいえ! そのような話、された事ありません!」

ぶんぶん手を振って否定する。

閑倉さんは怪訝そうだが、本当のことだから仕方ない。私は齋巫女になるつもりはないし、相応しい人もっと沢山いるはずだ。

「次の齋巫女といえ、閑倉さんも噂になってますよね」

「ただの噂」

「でも、相応しいと思います。少なくとも私よりは」

「私もたつた今、そう思った」

「たつた今?」

「話はもう終わり。早く課題を片付けましょう」

閑倉さんは手早く刀袋を解いていく。結局、閑倉さんが何を考えているのかさっぱりだ。

取りだされた呪装刀は刀身が茶色く錆びており、ところどころ欠けていた。呪力の源である勾玉も濁っている。

「千年は前の呪装刀ね」

「千年間、ずっと戦い続けてきたのですね」

勾玉に込められている巫女の魂に、心の中で労いの言葉をかける。

「閑倉さん、早く研いであげましょう」

「ええ。これくらいの損傷なら私だけで十分」

閑倉さんは懐紙を取りだし、それで呪装刀を挟みこ

んだ。

「掛巻も畏き、大御神の大前に、恐み恐みも白さく……」

厳かに祝詞があげられる。ぴんと空気が澄みわたり、清らかな音律と共に呪力の波が押し寄せた。





静かな祝詞とは裏腹に、渦巻く呪力の激流はわたしの身体をなぎ倒さんばかり。

これが、次期斎巫女と目される巫女の呪力なんだ。

閑倉さんが呪力を帯びた懐紙で呪装刀を拭う。これで呪装刀は輝きを取り戻す——はずだった。

「つ……どうして？」

閑倉さんが顔を歪める。研ぎを終えても、呪装刀は錆びついたままだった。

再び閑倉さんが研ぎを行うが、結果は同じ。これほどの呪力でも研げないなんて、どういう事だろう。

「——、——」

「え？」

今、何かが聞こえた。誰かの泣き声のような。

周囲を見渡すが、他に人はいない。

「あのう、何か聞こえませんでしたか？ 泣き声のようない？」

「何も聞こえなかったけど？ それよりこの呪装刀、変ね。呪力が通らなくて全然研げない」

姿、と言われても私に原因がわかるはずもない。呪装刀をまじまじ見ていると、閑倉さんが閃いたように目を輝かせた。

「もしかして、椎葉さんなら研げるんじゃない？」  
「いえいえいえ！ 閑倉さんが研げないのに、私に研げるはずが！」

「何かの才能があるから、斎巫女様はあなたに注目してるのかも。とにかくやってみて」  
そうやって私に呪装刀を握らせた。どうしよう、期待されている。

ええい、こうなったら当たって砕けろだ。目覚めよ、私の隠された才能！

「では、いきます！」

懐紙を取りだし、気合を入れて祝詞をあげる。

「ひい、ひい」  
必死に研いだが見事に失敗。呪装刀は錆びたままだ。つ、疲れた。呪力の消耗で疲弊し、呪装刀が重く感じる。

やっぱり、私に隠された才能なんてなかった。閑倉さんも肩を落としているように見える。閑倉さんにも呪装刀にも申し訳なさでいっばいだ。

「うう、私がしつかりしていれば……って、わああ!?」

錆びついた刀身を撫でると破片がぼろぼろと落ちた。慌てて拾い集める。

「ごめんなさいごめんなさい！ 大丈夫ですか!?」  
「ふふっ」

わたしたずる私を見て閑倉さんが笑った。そして、破片拾いを手伝ってくれる。

「呪装刀相手に気を遣いすぎよ」  
「だって、千年も戦ってくれたのに直せないなんて可哀相です。はあ、呪装刀すら救えないなんて……まだ未熟です」

「椎葉さんの成績でそんなこと言ったら、他の生徒に恨まれるわよ」

「でも、本心ですから。私は未熟……だから、閑倉さんが羨ましいです。閑倉さんくらい頭も良くて呪力が強ければって、ちょっぴり嫉妬してます」

閑倉さんが目を丸くした。  
「そんなこと、面と向かって言われたのは初めて」

「あはは、言いたいことは全部言いたくなる性格です」  
「……椎葉さんと話していると、隠し事してるのが情けなくなってくるわね」

自嘲気味に微笑んだあと、閑倉さんは深く頭を下げた。

「さっきはごめんなさい、試すようなことをして」  
「し、閑倉さん!? 気にしてませんから、お顔を上げてください！」

慌ててしまい、両手があわあわと動く。  
顔を上げた閑倉さんは、申し訳なさそうな表情をしていた。

「私、斎巫女がどうして椎葉さんに興味を持つてるのか知れたかったの」  
「もしかして、そのために私を相方に？」

閑倉さんが頷いた。  
「次の斎巫女になるのは、私たちのどちらかだと思ってる。だから私は、どちらが斎巫女に相応しいのか確かめたかった。皇国の未来のために」

さすが閑倉さんだ。私なんか自分の事で手一杯なのに、閑倉さんは皇国の未来を考えている。どちらが斎巫女に相応しいかは、もはや一目瞭然。

「閑倉さん、私を試した結果はどうでしたか？」  
「閑倉さんは答えにくそうに目を泳がせた。うん、予想通りの反応だ。」

数分前の会話を思い出す。  
『次の斎巫女といえは、閑倉さんも噂になっていますよね』

『ただの噂』  
『でも、相応しいと思います。少なくとも私よりは』

『私もたつた今、そう思った』  
私が斎巫女に適任ではないと判断したから、閑倉さんはああ言ったのだ。

「失礼なことをしてごめんなさい、椎葉さん」  
「いいんです。それに私は、閑倉さんこそが斎巫女に相応しいと本当に思っていますから」

私は斎巫女になれない。代わりに、閑倉さんが斎巫女に就任したら全力で公務のお手伝いをしよう。

「では、閑倉さんが斎巫女になれるよう、頑張って課

題をこなしましょう、おー！」

閑倉さんの手を取って、天に突き上げる。

申し訳なさそうだった閑倉さんの表情が、ようやく柔らかくなった。

「閑倉さん、もう一度！」

「ええ！」

私と閑倉さんは、協力しながら何度も研ぎを行う。だが、呪装刀が輝きを取り戻す気配はない。

「――、――」

また声が聞こえた。しかも研ぎを行うたびに鮮明になっている。もしかして、この声を発しているのは……。

「ここまでやっても駄目なんて、どうなってるの？」

閑倉さんが額の汗を拭う。私も膝に手をつけて息を整えた。

「閑倉さん、そろそろ時間が」

「最後に、もう一度だけ」

懐紙を取り出した閑倉さんが、祝詞をあげる。

「掛巻も畏ぎ、大御神の大前に、恐み恐みも白さく……」

『もっ、嫌』

今度は明確に声が聞こえた。すすり泣き混じりの女性の声だ。声の元は、間違いない、呪装刀。

閑倉さんの巫女服を引っ張り、祝詞を中断させる。

「あのあの、今、呪装刀から声が聞こえたような」

「呪装刀の声を聞いたの!？」

閑倉さんが驚愕する。

「ま、まずかつたでしょうか」

「逆よ逆! 呪装刀の声を聞けるなんて、他には斎巫女様くらいいよ!」

「ええっ!？」

もしかして、これが私の隠された才能? うーん。

閑倉さんは驚いているけど、呪装刀の声を聞けたところで斎巫女になれるとは思えない。

「斎巫女様は、いつも呪装刀の声を聞いているのですか?」

「ええ、『呪装刀にも心がある』と前に言っていたわ」

呪装刀にも心がある……。

言葉を反芻していると、呪力の気配を呪装刀から感

じた。閑倉さんと共に呪装刀に目をやる。研ぎの効果が出てきたのかも。

すると、閑倉さんの顔が急に強ばった。

「離れて!!!」

「わっ!」

いきなり突き飛ばされて地面を転がる。

顔を上げるよりも先に、邪悪な呪力を感じて背筋が凍った。

「っ! 閑倉さん!？」

目の前の光景が、すぐには理解できなかった。

閑倉さんが地面に倒れ伏し、身体に黒い触手のようなものが幾本も刺さっている。触手を伸ばしているのは、閑倉さんの真上に浮かぶ呪装刀。刀身を天に向け、禍々しい呪力を発している。

呪装刀は完全に暴走状態。まさか、私たちの研ぎが原因?

いや、まずは閑倉さんを助けなきゃ!

「来ないで」

私に気づいた閑倉さんが首を振った。

呪装刀が触手を発生させて、先端を私に向ける。殺意を感じて心臓が跳ねた。

「今すぐ、逃げて」

「でも、このままでは閑倉さんが!」

「大丈夫」

弱々しく笑う閑倉さん。

大丈夫なはずがない。出血はないが、顔色がどんどん青白くなっている。あの触手が呪力を吸収しているんだ。このままだと命まで奪われてしまう。

助けを呼ぶ時間なんて、ない。

「掛巻も畏ぎ、大御神の大前に、恐み恐みも白さく……!」

祝詞をあげ、身体に流れる呪力を凝縮させる。

「大御神に請い願う! 民に仇なす厄災を討ち滅ぼし給え!」

呪力を衝撃波に変えて解き放つ、渾身の呪術。放たれた衝撃波は土煙を上げて呪装刀に直撃。鈍い金属音が響き渡った。

せめて、触手さえ消えれば!

「……そんな」

絶望が胸に広がり膝をつく。

呪装刀は微動だにしておらず、無傷。触手は引っ込む気配もなく蠢いている。

「逃げて」

閑倉さんが顔を歪ませて咬いた。

嫌だ、閑倉さんを置いて逃げられるはずがない。でも、どうすれば。

やっぱり私は斎巫女の器じゃない。本物の斎巫女なら、瞬く間に閑倉さんを救えるはず。

「来ないで、来ないで。嫌、嫌」

また呪装刀の声が聞こえた。何を拒絶しているんだろう。

呪装刀にも心がある、と斎巫女様は仰っていたらしい。つまり、人と同じような望みや苦しみを持っているということ?

心があるなら通わせることもできるはず。閑倉さんを救う手段が見つかるかもしれない。

決心して呪装刀に歩み寄っていく。

「閑倉さん、待っていてください。助けますから」



閑倉さんが何か言おうとするが、もう声が出ていない。触手が襲ってきて、避ける間もなく右肩に突き刺さった。呪力を吸われて視界が霞むが、歩みは止めない。一步、また一步……やがて、伸ばした手が呪装刀に触れた。嘆きより鮮明に響いてくる。

聞かせて。あなたの望みを、苦しみを。『もう戦いたくない……仲間同士が戦うなんて……』声を聞いて、はつとする。

どうして、早く気づいてあげられなかったのか。この声は、勾玉に込められた巫女の魂が発しているのだ。そうか……

きつと、この刀は内乱や仲間内での争いで使われたのだ。皇国を守るために作られた呪装刀。しかし、斬ったのは同じ血が流れる皇国人だった。

巫女にとっては大いなる裏切りだったのだろう。だからこそ、呪装刀は自らの意思で研ぎを拒んでいるのだ。

「さぞつらかったことでしょう。大丈夫、もう、あなたを戦場には送りません」

語りかけると、呪装刀の呪力が弱まった。今なら私の呪術も通る。

彼女の魂を解放する手段は一つ——呪装刀の破壊。掛巻も畏き、大御神の前にも、恐み恐みも白さく……」

刀身に触れた掌に、あらん限りの呪力を込める。外からの打撃ではなく、内側から破壊するんだ。

「あ、ああ……」

力を流し込むと呪装刀から吐息が漏れた。刀身に幾本ものヒビが入り、清冽な光が漏れる。呪装刀が崩壊しようとしているのだ。

封じられた呪力が解放されれば、周辺一帯が衝撃に巻き込まれるかもしれない。

「閑倉さん、立てますか!？」

「ええ、何とか」

触手はすでに消滅している。閑倉さんに肩を貸し、急いで呪装刀から距離を取っていく。呪装刀の割れる音がして振り返ると、刀身に大きなヒビが入っていた。割れ目からあふれ出た光の奔流が

呪装刀を包み込む。光は一瞬で天に伸び、光柱と化した。あの光は、彼女が迷わないための道しるべだ。丘を下りきったところで、私は再び光柱を振り返つた。

「椎葉さん、もつと離れないと」  
「ごめんなさい、私は彼女を見届けます。閑倉さんは安全な場所へ」

「……命の恩人を置いて行けると思う?」  
ため息をついて、閑倉さんも光柱に目をやる。

——次のあなたの人生が、幸せであることを願っています。

私が最後の祈りを捧げると、光柱が爆発するように強い輝きを発した。

「っ!」  
視界が白く焼かれて咄嗟に顔を閉じる。さらに地面が揺れて転びそうになるが、閑倉さんが支えてくれた。

揺れが取まると、次に訪れたのは静寂だった。何も起こらないので、ゆっくりと目を開く。

「わあ……」  
思わず驚嘆の声が出た。

光柱のあった丘一帯が、大きく抉れていたのだ。私たちの目の前には、広く窪んだ地面が広がっている。

呪装刀の呪力は感じられない。丘と一緒に消滅したのだろう。

「ねえ、椎葉さん。あの呪装刀は何と言っていたの?」  
「もう仲間同士の戦いから解放されたい、と」

悲痛な声を思い出すと涙が溢れそうになる。濡れた目尻を拭いていると、閑倉さんが眩しいものを見るように目を細めた。

「斎巫女の気持ちが変わった気がする。椎葉さん、あなたは呪装刀の声を聞けるだけじゃない。誰よりも優しいのね」

「そんな、私より優しい人なんて沢山います」  
「自分を傷つけた相手の幸せを願うなんて、簡単にできることじゃない。たぶん、斎巫女に選ばれるのは私じゃない……」

そこまで言い、閑倉さんがふらついた。

「五十鈴!」

「……五十鈴?」

閑倉さんの肩がびくびくと動く。  
「す、すみません、思わず名前を……って、あれ? 前にも同じことを……」

「あたふたしていると、閑倉さんが軽く吹いて笑った。『ふふつ、別に怒ってない。馴れてないからびくびくしただけ』

「ほ、本当ですか?」

「本当。それより古杜音、歩くの手伝ってくれる?」  
五十鈴が微笑んだ。名前で呼んでくれたのが嬉しくなり、疲れ果てた身体に力が湧く。新たな友人に肩を貸しながら、私は歩きはじめた。

ふと、呪装刀の音が聞こえた気がして空を見上げる。『ありがとう』

爽やかな風と共に流れてきた声は、確かにそう言っていた。



——六年後、古杜音は斎巫女に就任し、皇国を奪還する戦いに身を投じることになる。

完



# スタッフ対談

べっかんこう×榊原拓

#45

2017.7.20 14:45 社内にて

榊原拓(以下「榊」) さあ、今回も対談の時間がやってまいりました！しかし暑いですねえ。

べっかんこう(以下「べっ」) 暑いのは苦手です。でもクーラーも身体が冷えるのがねー。

榊 体調を崩さないように気をつけましょう。今週末にはついにTA2017が開催を迎えることですよ。

べっ ずっと楽しみにしてたんです。スタッフもみんな客席に聞きに行きますよー。

榊 今回のTAは、千桃に合わせて和楽器も取り入れた編成になるじゃないですか。

べっ 尺八・津軽三味線・箏・篠笛・鼓・胡弓、ですね。

榊 どうなるのかあまり想像できないので、個人的には期待が膨らんでいます。そして胡弓と言えば……

べっ イメージイラストですね。たまたま朱璃に似合いそうな和楽器ということで選んだんですが、とても気に入ってくださったそうで、編成に入れてもらったり商品化まで。

榊 じゃあもう完全に、あの辺は朱璃に胡弓を持たせたイラストがきっかけだったんですね。編成までそうだったとは。

べっ 組み紐の形状とか細かいところまでちゃんと再現してくださってるみたいなので、実物を見られるといいなあ。

榊 会場に行くのが楽しみです！

べっ 皆さんの感想を是非お待ちしております。

榊 さてさて、千桃がCS化されることになりました！12月発売ですよ。

べっ バケ絵とか特典とかはもう描き終えています。これを機に未プレイの方にも遊んでもらいたいですね。

榊 PlayStationネットワークからDL購入もできる予定です。

べっ 初回版には色々特典も付くので、そっちもよろしくお願いします。

榊 そう言えば以前、ユーザーの方から「パッケージ版とDL版はどっちを買う方がオーガストのスタッフの皆さんは嬉しいんですか？」って質問を頂いたことがありまして。

べっ おお、ありがたい話ですね。どう答えましたか？

榊 スタッフとしてはプレイしていただけるのが一番嬉しいので、お買い上げのうえプレイしていただけるならどちらでも、と。

べっ 確かにそうですね。

榊 初回版の特典などの詳細は、この小冊子の別のページに載ってると思いますので、そちらをご覧ください。

べっ ……でもアレですよ、夏コミグッズになぜか五十鈴が沢山出てきますが、ここで全国の五十鈴ファンに残念なお知らせが。

榊 CS版の千桃で、別に五十鈴が攻略対象になるわけではありません！

べっ 「おっ、これはもはや！」と期待させてしまったら申し訳ありません……この小冊子だけでもイオ先生と僕の二人とも五十鈴描いてるんですが。

榊 五十鈴ファンと言えば僕もですよ！ショートカット最高！なぜだ！

べっ いろいろと事情が。

榊 くっそー、事情め！

べっ さて気を取り直して。新作のお披露目が始まります。

榊 DMMさんとのアレですよ。詳細はまだ告知できない模様ですが、シナリオチームはいろいろ取り組んでいます。

べっ 原画・CGチームも頑張ってますよー。今までとは少し勝手が違うので悩みつつも楽しく作業を進めています。早く詳細をお知らせしたいですね。

榊 ああっ、キャラとか世界観とかいろいろ喋りたいのにまだ言えない……！また事情か！事情め！

べっ 次回のこの冊子ではもう少しお話できると思うので、色々想像しながらお待ちください。



——奮い立て宗仁。私のために。

# 千の刃濤 桃花染の皇姫

PlayStation4/PSVitaにて12月21日発売予定

出演声優

宮国朱璃 仙台 エリ \* 鶴田奏海 戸板 優衣 \* 椎葉古杜音 高森 奈津美 \* 稲生譜 中島 沙樹 \* エルザ・ヴァレンタイン 尾崎 真実 ほか

シナリオ

榎原拓 \* 内田ヒロユキ \* 安西秀明 ほか

原画

べっかんこう \* 夏野イオ

ARIA

## 千の刃濤、桃花染の皇姫が PlayStation4 / PSVitaに登場。

昨年9月に発売されたオーガストの最新作、  
『千の刃濤、桃花染の皇姫』が PlayStation®4と  
PlayStation®Vitaに移植されます。

Vita版は携帯機ならではのどこでもプレイできる利便性、  
PS4版はPC版を上回る高解像度により更なる美麗なCGがお楽しみ頂けます。  
パッケージ版にて豪華特典付きの限定版が  
ラインナップされているほか、PSStoreにてDL版も同時発売。  
未体験の方は、ぜひこの機会に忠義と愛のADVをお楽しみ頂ければ幸いです。



### ❖ スタッフコメント

PC版発売から約1年、無事コンシューマ  
移植が決定しました。CGの高解像度処理  
により、特にPS4版のCGは美しくかつ大  
迫力。映画のような内容をご堪能い  
ただけるとお思いますので、ぜひこの機会に  
朱璃と宗仁の忠義の物語、「千桃」をお楽し  
みくださいませ！

※ゲーム本編内に新規シナリオや追加CGなどはございませんので、PC版をお持ちの方はご注意ください。

## ❖ 初回限定版 特典

### 特製ケース

初回限定版は、和の作風に合わせ、文箱を模した特製ケース仕様となります。

特典  
☆  
1

アレンジ音楽CD

せんもも へんがくしゅう ゆうすい

### 千桃編 楽集-幽翠-

「千の刃濤、桃花染の皇姫」にて使用された楽曲に、  
和の趣をさらに極め深みを増すアレンジを施しました。  
レーベルイラストは夏野イオ描きおろし。  
皇国民の皆さまをプレイ中・プレイ後の余韻に誘う、  
楽曲制作集団「ActivePlanets」渾身の一枚です。



特典  
☆  
3

特典小冊子

### 千桃クロニクル -遊戯場の章-

PC版「千桃」の特典小冊子の内容をベースとしつつ、  
最新の版權イラストを追加した、100ページ超の特厚  
小冊子です。版型は変形A5サイズとなります。  
店頭やイベント会場を飾ったイラストから設定ラフ画や  
キャラクター紹介、作画・執筆スタッフコメントまで、  
内容満載のブックレットをお楽しみください。



特典  
☆  
2

特製ランチョンマット

### 皇国の昼餉

PlayStation 版発売に合わせて描き下ろされたジャケッ  
トイラストのランチョンマットです。サイズは60cm×  
45cm。食卓のテーブルに、お弁当のお供にぜひどうぞ。



特典  
☆  
4

### 古杜音の ラバーキーホルダー

小ぶりなサイズのキーホルダー。どのような鞆や小物とも  
なじみやすいデザインとなっております。  
斎巫女があなたの幸福を願います。



※デザインは仮のもので、変更の可能性があります。

### 製品概要

初回限定版価格 + 9,980円<sup>税込</sup> 通常版価格 + 5,980円<sup>税込</sup>

発売日 + 2017年12月21日 プラットフォーム + PlayStation4 / PSVita 制作 + ARIA

## \* あとがき

Postscript

オフィシャルハンドブックをお読みいただき、ありがとうございました。  
お楽しみいただけましたでしょうか。

ファンディスクの構想も進んでいる千桃ですが、先行してPlayStation版の発表となりました。  
あいにくと今回は新シナリオなどの追加要素はなく、ご期待頂いた方は大変申し訳ございません。  
そちらはファンディスクなどでできっと実現したいと思います。  
作品公式ページは8月10日より公開しておりますので、下記ARIA公式サイトからご覧くださいませ。  
より多様なデバイスをお持ちの方にお楽しみいただければ幸いです。

さて、左のページには新キャラクターとおぼしきキャラ絵が2名。  
現在オーガストでは、千桃ファンディスクと並行して、  
DMMGAMESさんと協力して新作ゲームを1本開発しております。  
一部キャラクターのみ提供ないし制作協力……という形ではなく、  
シナリオとキャラクターやイラスト、音楽に関してはすべてオーガストが担当。  
しっかりとした正規の新規タイトル扱いにて、  
スタッフ一同本気の全力で制作にあたっている作品です。

アドベンチャーゲームとはいろいろと勝手が違うのですが、  
それだけに新鮮な発見も多々あり、開発スタッフも非常に楽しく取り組んでいます。  
まずは作り手が楽しいこと。  
皆様に楽しんでいただける作品を作る上で、とても大事なことだと思うのです。  
(ちなみに純粋なADVではないタイトルは、もしやオーガストファンボックス以来?)  
タイトルやプラットフォーム、作品詳細は近日中に  
しっかりとご案内できると思いますので、  
もうほんの少しだけ、楽しみにお待ちいただければ幸いです。

昨年くらいからAndroid端末対応を進めつつ、  
今回もまた新しい媒体での展開を企画したりと、  
オーガストもまだまだ模索を続けている最中。  
もちろんPCWindowsでのリリースも続けていきますので、  
よろしければ今後とも、オーガスト/ARIAを  
どうぞよろしく願いたします。

2017年夏 オーガスト/ARIA スタッフ一同



## \* AUGUST OFFICIAL HANDBOOK

2017 SUMMER

企画・制作



<http://august-soft.com/>



<http://aria-soft.com/>

当小冊子の一部のページを撮影し、ブログ・SNS等に転載していただくことは問題ございません。※全ページを複製配布することはご遠慮下さい。



 **AUGUST**

×

**DMM GAMES**



**AUGUST OFFICIAL HAND BOOK**  
2017 SUMMER